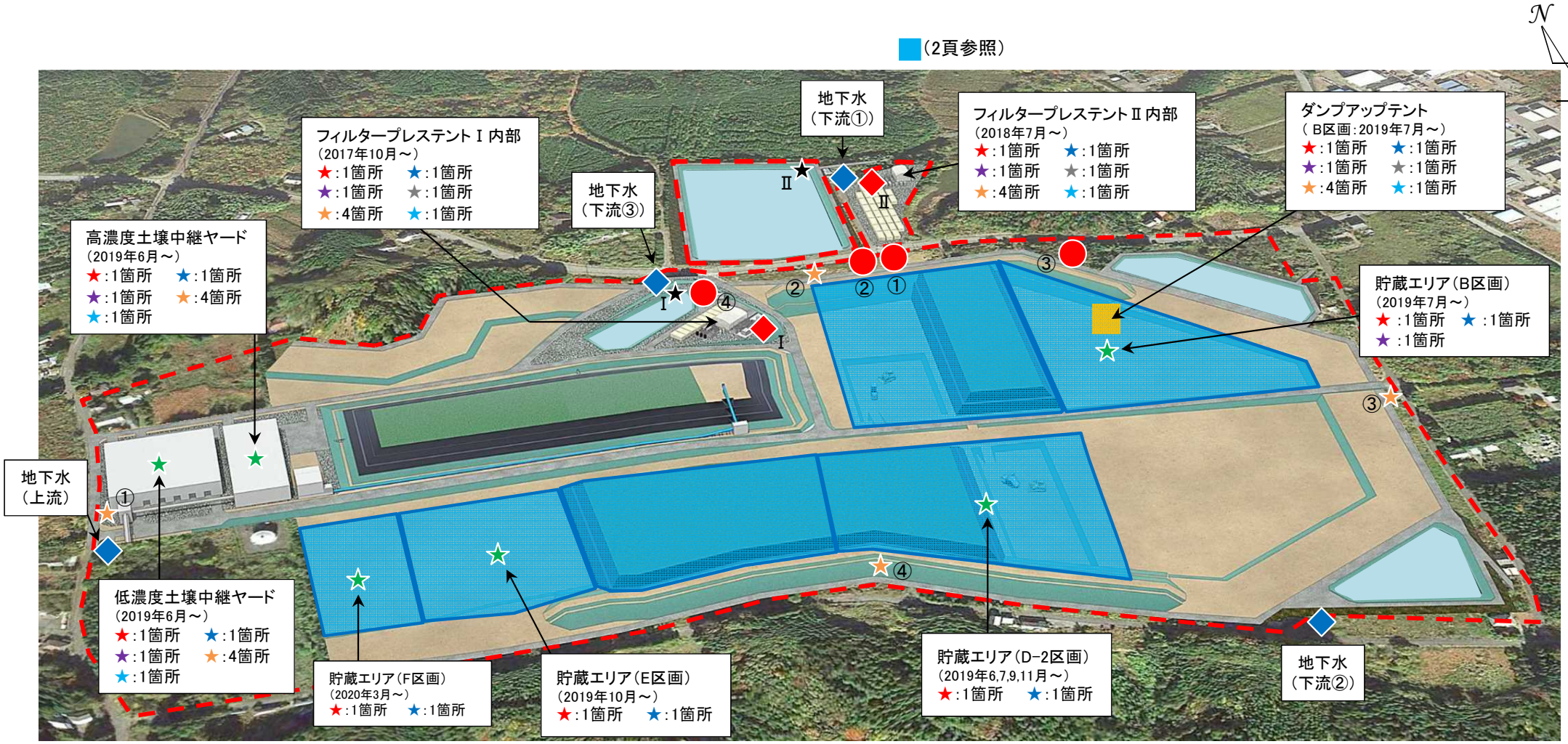
土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定）①

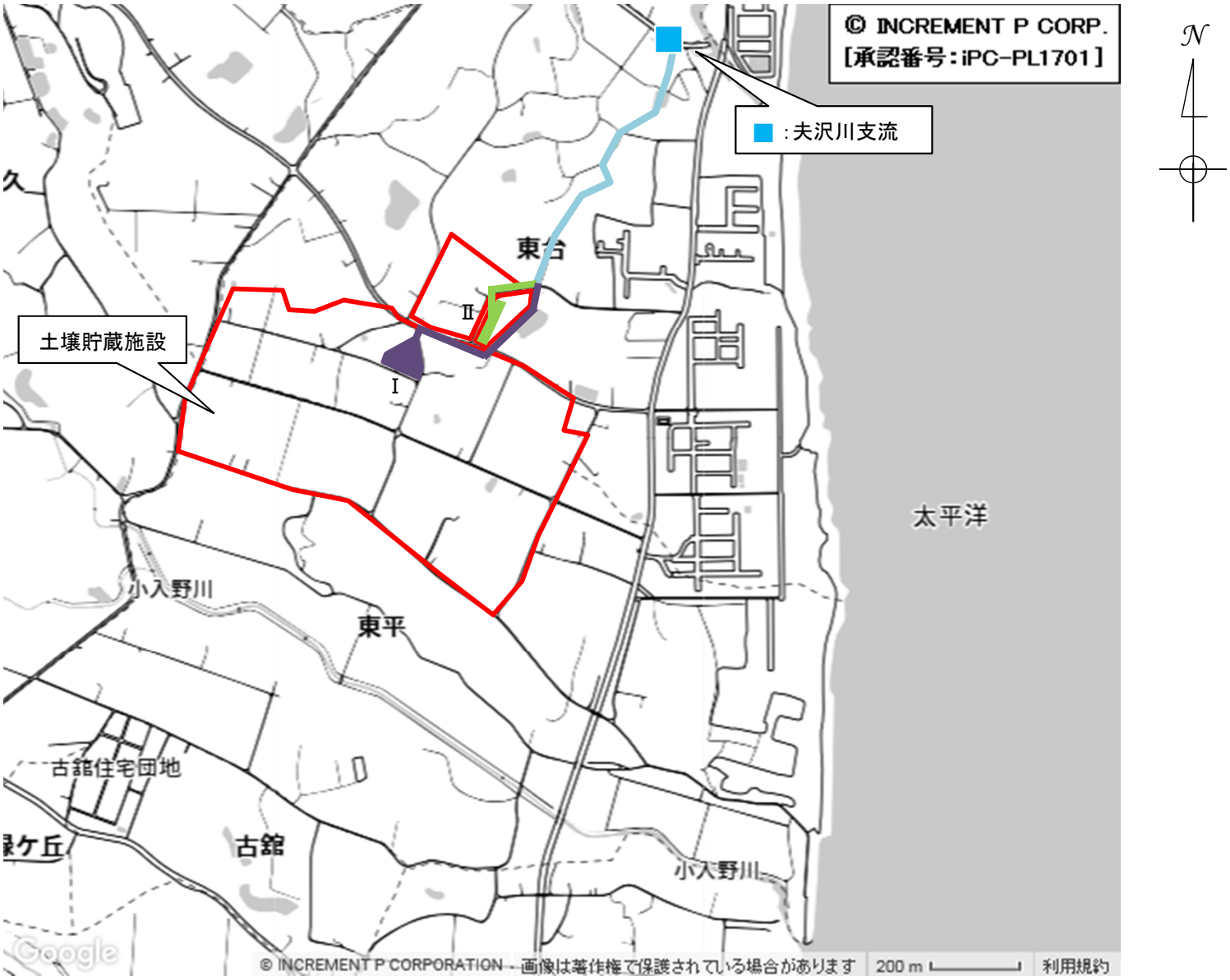


☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定）②



凡例

- ：河川水観測地点
- ：放流水の流路（浸出水処理施設Ⅰ）
- ：放流水の流路（浸出水処理施設Ⅱ）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2020年3月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2020/3/5 （稼働後）	13	12
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2020/3/5 （稼働後）	21	12
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2020/3/5 （稼働後）	16	7.5
下流③	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2020/3/5 （稼働後）	43	14

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2020/3/17 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2020/3/17 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2020/3/17 （稼働後）	ND
集排水設備④	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2020/3/17 （稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水Ⅰ	2020/3/5	8.4	1.2	19	2
処理水Ⅱ	2020/3/5	8.1	1.2	17	2

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水Ⅰ	2020/3/2 ～2020/3/31	68	0.0	4.8	ND	1690.1
処理水Ⅱ	2020/3/2 ～2020/3/31	132	0.0	4.9	ND	4004.1

濁度管理値：5以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池Ⅰ	2020/3/5	5
沈砂池Ⅱ	2020/3/5	45

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2020/3/6 （稼働後）	ND	1.0

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/3/4～6（稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.4
フィルタープレステントⅠ	0.1
フィルタープレステントⅡ	0.1
低濃度土壌中継ヤード	1.5
高濃度土壌中継ヤード	1.0
貯蔵エリア（B区画）	0.2
貯蔵エリア（D-2区画）	0.2
貯蔵エリア（E区画）	0.2
貯蔵エリア（F区画）	0.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/3/13（稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.28
フィルタープレステントⅠ	0.23
フィルタープレステントⅡ	0.54
低濃度土壌中継ヤード	0.36
高濃度土壌中継ヤード	1.37
貯蔵エリア（B区画）	2.21
貯蔵エリア（D-2区画）	0.35
貯蔵エリア（E区画）	0.71
貯蔵エリア（F区画）	0.70

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/3/13（稼働後） Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステントⅠ	ND	ND
フィルタープレステントⅡ	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：　セシウム134：　1.0　$\times 10^{-7} Bq/cm^3$、セシウム137：　1.0　$\times 10^{-7} Bq/cm^3$

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

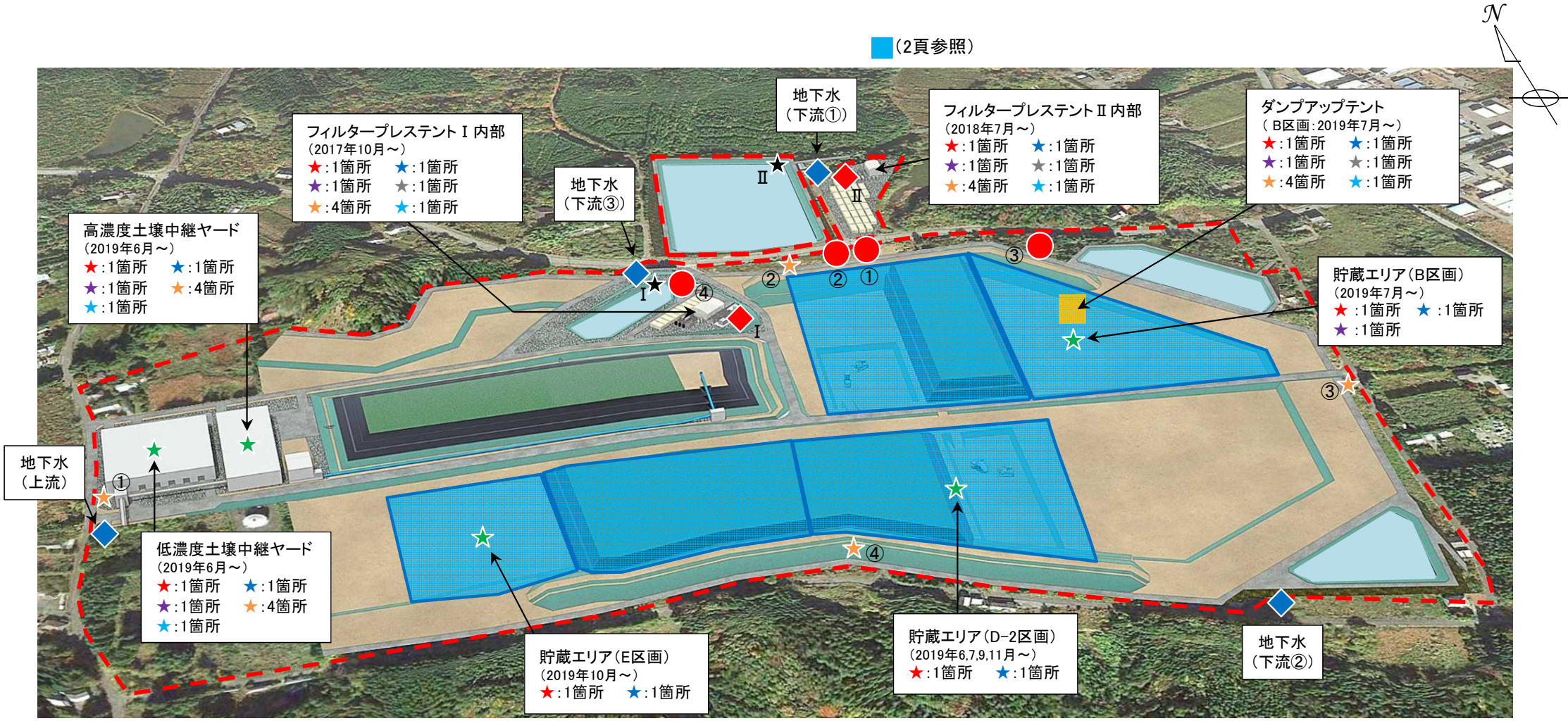
測定地点			2020/3/13（稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステントⅠ	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
フィルタープレステントⅡ	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	バックホウB-①	ND
		バックホウB-②	ND
		ブルドーザーB-①	ND
		ローラーB	ND
		スクレープドーザーB	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	バックホウD2-①	ND
		ブルドーザーD2-①	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	バックホウE-①	ND
		キャリアダンプE	ND
貯蔵エリア（F区画）	重機	バックホウF-①	ND
		ブルドーザーF-①	ND
		スクレープドーザーF	ND

表面汚染密度検出下限値：　0.14　Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定）2020年2月



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2020年2月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2020/2/6 （稼働後）	13	11
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2020/2/6 （稼働後）	22	13
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2020/2/6 （稼働後）	14	5.9
下流③	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2020/2/6 （稼働後）	46	17

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2020/2/21 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2020/2/21 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2020/2/21 （稼働後）	ND
集排水設備④	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2020/2/21 （稼働後）	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水Ⅰ	2020/2/6	8.1	2.2	13	3
処理水Ⅱ	2020/2/6	7.8	0.8	12	2

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水Ⅰ	2020/2/1 ～2020/2/29	85	0.0	4.8	ND	2100
処理水Ⅱ	2020/2/1 ～2020/2/29	138	1.1	3.8	ND	4154.9

濁度管理値：5以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池Ⅰ	2020/2/6	4
沈砂池Ⅱ	2020/2/6	24

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2020/2/6 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/2/5～7（稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.5
フィルタープレステントⅠ	0.1
フィルタープレステントⅡ	0.1
低濃度土壌中継ヤード	1.7
高濃度土壌中継ヤード	0.3
貯蔵エリア（B区画）	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	0.2
貯蔵エリア（E区画）	0.2

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/2/19（稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.25
フィルタープレステントⅠ	0.25
フィルタープレステントⅡ	0.56
低濃度土壌中継ヤード	0.36
高濃度土壌中継ヤード	1.15
貯蔵エリア（B区画）	2.16
貯蔵エリア（D-2区画）	0.48
貯蔵エリア（E区画）	0.36

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/2/19（稼働後） Cs-134 (Bq/cm^3)	2020/2/19（稼働後） Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステントⅠ	ND	ND
フィルタープレステントⅡ	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 $\times10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137： 1.0 $\times10^{-7}Bq/cm^3$

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}＋セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

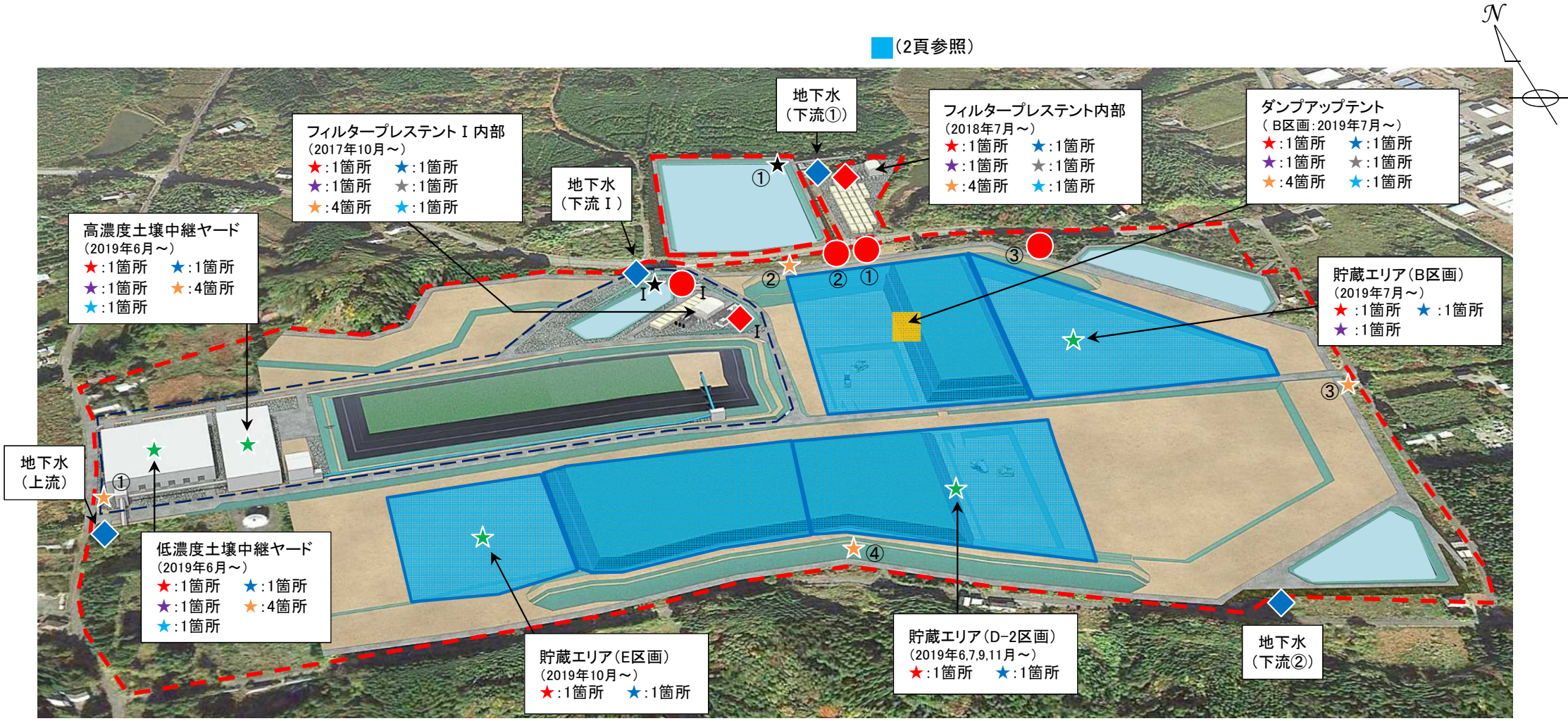
測定地点			2020/2/19（稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステントⅠ	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
フィルタープレステントⅡ	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	ブルドーザーB-①	ND
		バックホウB-①	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	ブルドーザーD2-①	ND
		バックホウD2-①	ND
		キャリアダンプD2	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	ブルドーザーE-①	ND
		ブルドーザーE-②	ND
		バックホウE-①	ND
		バックホウE-②	ND
		スクレープドーザーE	ND

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定）2019年11月～2020年1月



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- --- : 旧大熊②工区、第1期　土壌貯蔵施設境界
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2020年1月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2020/1/9 （稼働後）	13	7.0
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2020/1/9 （稼働後）	23	8.2
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2020/1/9 （稼働後）	17	4.4
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2020/1/9 （稼働後）	43	8.6

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2020/1/21 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2020/1/21 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2020/1/21 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2020/1/21 （稼働後）	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2020/1/9	7.1	2.1	18	14
処理水Ⅰ※	2020/1/9	7.3	1.1	19	2

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8~8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2020/1/6 ~2020/1/31	90	0.7	4.8	ND	2660.2
処理水Ⅰ※	2020/1/6 ~2020/1/31	69	0.0	4.2	ND	1682.9

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2020/1/9	7
沈砂池Ⅰ※	2020/1/9	11

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2020/1/9 （稼働後）	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2020/1/8~1/10（稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.4
フィルタープレステント	0.1
フィルタープレステントⅠ※	0.3
低濃度土壌中継ヤード	ND
高濃度土壌中継ヤード	0.3
貯蔵エリア（B区画）	0.2
貯蔵エリア（D-2区画）	0.2
貯蔵エリア（E区画）	0.9

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2020/1/17（稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.25
フィルタープレステント	0.85
フィルタープレステントⅠ※	0.21
低濃度土壌中継ヤード	0.33
高濃度土壌中継ヤード	0.97
貯蔵エリア（B区画）	2.40
貯蔵エリア（D-2区画）	0.66
貯蔵エリア（E区画）	0.75

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2020/1/17（稼働後） Cs-134 (Bq/cm^3)	2020/1/17（稼働後） Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 $\times 10^{-7}Bq/cm^3$、セシウム137： 1.0 $\times 10^{-7}Bq/cm^3$

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2020/1/17（稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	ブルドーザーB-①	ND
		バックホウB-①	ND
		ローラーB	ND
		スクレープドーザーB-①	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	ブルドーザーD2-①	ND
		ローラーD2	ND
		バックホウD2-①	ND
		バックホウD2-②	ND
		キャリアダンプD2	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	ブルドーザーE-①	ND
		バックホウE-①	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年12月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日		電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10	(稼働前)	13	13
	2019/12/5	(稼働後)	11	9.3
下流①	2018/7/11	(稼働前)	23	13
	2019/12/5	(稼働後)	21	12
下流②	2018/7/10	(稼働前)	17	5.7
	2019/12/5	(稼働後)	14	5.8
下流Ⅰ※	2017/10/11	(稼働前)	19	6.5
	2019/12/5	(稼働後)	42	13

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日		放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5	(稼働前)	ND
	2019/12/5	(稼働後)	ND
集排水設備②	2018/10/15	(稼働前)	ND
	2019/12/5	(稼働後)	ND
集排水設備③	2019/6/26	(稼働前)	ND
	2019/12/5	(稼働後)	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5	(稼働前)	ND
	2019/12/5	(稼働後)	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/12/5		7.5	ND	15	ND
処理水Ⅰ※	2019/12/5		8	ND	14	2

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

生物化学的酸素要求量（BOD）のNDとは、報告下限値（0.5mg/L）未満であることを示す。

浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/12/2 ～2019/12/26	51	0.0	2.9	ND	1543.7
処理水Ⅰ※	2019/12/2 ～2019/12/26	46	0.0	4.9	ND	1125.9

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2019/12/5	2
沈砂池Ⅰ※	2019/12/5	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日		Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10	(稼働前)	ND	5.0
	2019/12/5	(稼働後)	ND	ND

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/12/4～6 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.4
フィルタープレステント	0.2
フィルタープレステントⅠ※	ND
低濃度土壌中継ヤード	0.7
高濃度土壌中継ヤード	0.8
貯蔵エリア（B区画）	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	0.3
貯蔵エリア（E区画）	0.3

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/12/13 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.29
フィルタープレステント	0.95
フィルタープレステントⅠ※	0.23
低濃度土壌中継ヤード	0.33
高濃度土壌中継ヤード	0.95
貯蔵エリア（B区画）	2.26
貯蔵エリア（D-2区画）	0.72
貯蔵エリア（E区画）	0.80

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/12/13 (稼働後) Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/12/13 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	ブルドーザーB①	ND
		バックホウB①	ND
		ローラーB	ND
		スクレープドーザーB	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	ブルドーザーD2①	ND
		スクレープドーザーD2	ND
		バックホウD2①	ND
		バックホウD2②	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	ブルドーザーE①	ND
		バックホウE①	ND
		ローラーE	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年11月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/11/7 （稼働後）	12	10
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/11/7 （稼働後）	22	13
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/11/7 （稼働後）	16	7.1
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/11/7 （稼働後）	42	15

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/11/18 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/11/18 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2019/11/18 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/11/18 （稼働後）	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/11/7	8	3.3	14	5
処理水Ⅰ※	2019/11/7	8.2	0.7	13	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/11/1 ～2019/11/30	133	0.0	4.9	ND	3939.9
処理水Ⅰ※	2019/11/1 ～2019/11/30	67	0.0	4.6	ND	1721.7

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2019/11/7	32
沈砂池Ⅰ※	2019/11/7	1

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/11/7 （稼働後）	ND	1.2

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/11/6～8（稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.4
フィルタープレステント	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND
低濃度土壌中継ヤード	0.4
高濃度土壌中継ヤード	ND
貯蔵エリア（B区画）	0.5
貯蔵エリア（D-2区画）	0.8
貯蔵エリア（E区画）	0.1

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/11/15（稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.34
フィルタープレステント	1.21
フィルタープレステントⅠ※	0.41
低濃度土壌中継ヤード	0.42
高濃度土壌中継ヤード	0.53
貯蔵エリア（B区画）	3.27
貯蔵エリア（D-2区画）	0.45
貯蔵エリア（E区画）	0.98

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/11/15（稼働後） Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/11/15（稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ①	ND
		バックホウ②	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	ホイールローダー	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	バックホウB-①	ND
		ローラーB	ND
		ブルドーザーB-①	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	バックホウD2-①	ND
		ローラーD2	ND
		ブルドーザーD2-①	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	バックホウE-①	ND
		ブルドーザーE-①	ND
		スクレープドーザーE	ND

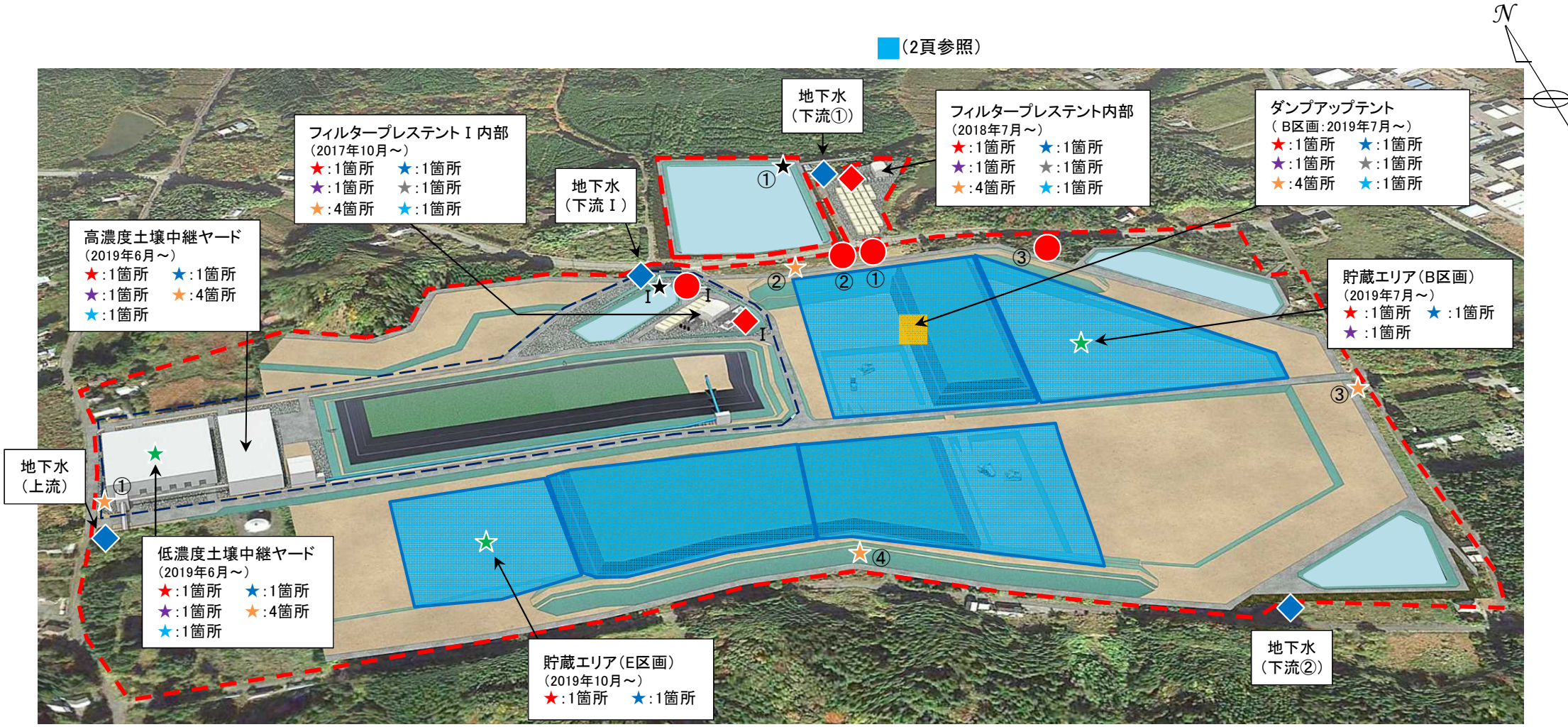
※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定） 2019年10月



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- --- : 旧大熊②工区、第1期　土壌貯蔵施設境界
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年10月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/10/3 （稼働後）	11	9.6
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/10/3 （稼働後）	24	12
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/10/3 （稼働後）	16	8.2
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/10/3 （稼働後）	41	12

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/10/17 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/10/17 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2019/10/17 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/10/17 （稼働後）	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/10/3	8.5	1	18	ND
処理水Ⅰ※	2019/10/3	8.4	ND	24	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8~8.6 , BOD基準：60mg/L , COD基準：90mg/L , SS基準：60mg/L

生物化学的酸素要求量（BOD）のNDとは、報告下限値（0.5mg/L）未満であることを示す。

浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/10/1 ~2019/10/31	385	0.5	5.0	ND	11525.2
処理水Ⅰ※	2019/10/2 ~2019/10/31	188	0.0	4.5	ND	4583.8

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2019/10/3	2
沈砂池Ⅰ※	2019/10/3	2

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/10/3 （稼働後）	ND	2.7

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/10/2,3 （稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	1.2
フィルタープレステント	0.2
フィルタープレステントⅠ※	0.4
低濃度土壌中継ヤード	0.9
高濃度土壌中継ヤード	0.4
貯蔵エリア（B区画）	1.0
貯蔵エリア（E区画）	2.6

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/10/10 （稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.28
フィルタープレステント	0.50
フィルタープレステントⅠ※	0.44
低濃度土壌中継ヤード	0.48
高濃度土壌中継ヤード	1.03
貯蔵エリア（B区画）	2.70
貯蔵エリア（E区画）	0.83

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/10/10 （稼働後） Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 ×$10^{-7}$$Bq/cm^3$、セシウム137： 1.0 ×$10^{-7}$$Bq/cm^3$

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/10/10,24 （稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
	重機	バックホウ	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	ベルトコンベア出口	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	バックホウB-①	ND
		ローラーB	ND
		ブルドーザーB-①	ND
		スクレープドーザーB	ND
貯蔵エリア（E区画）	重機	バックホウE-①	ND
		バックホウE-②	ND
		ブルドーザーE-①	ND

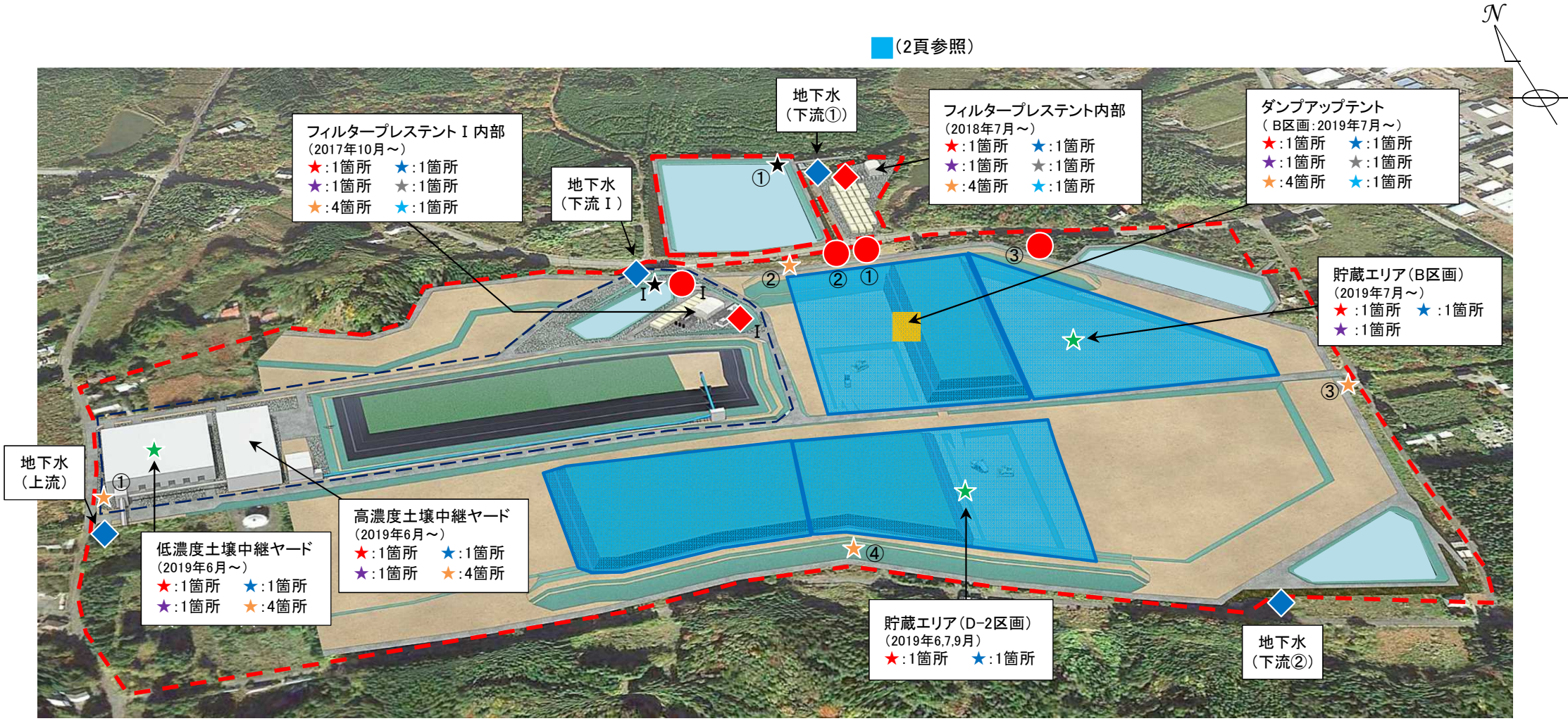
※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定） 2019年9月



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- --- : 旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設境界
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年9月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/9/5 （稼働後）	12	11
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/9/5 （稼働後）	21	12
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/9/5 （稼働後）	15	6.4
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/9/5 （稼働後）	41	14

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/9/11 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/9/11 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2019/9/11 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/9/11 （稼働後）	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/9/5	7.9	1.5	25	1
処理水Ⅰ※	2019/9/5	8.2	0.5	18	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/9/2 ～2019/9/30	230	0.0	4.7	ND	6689.8
処理水Ⅰ※	2019/9/2 ～2019/9/27	17	0.7	3.3	ND	414.5

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2019/9/5	3
沈砂池Ⅰ※	2019/9/5	8

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/9/5 （稼働後）	ND	2.6

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/9/4,5 （稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.3
フィルタープレステント	0.1
フィルタープレステントⅠ※	0.1
低濃度土壌中継ヤード	4.0
高濃度土壌中継ヤード	0.1
貯蔵エリア（B区画）	0.1
貯蔵エリア（D-2区画）	0.6

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

NDとは、定量下限値未満であることを示す。

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/9/12,13 （稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.36
フィルタープレステント	0.47
フィルタープレステントⅠ※	0.45
低濃度土壌中継ヤード	0.46
高濃度土壌中継ヤード	1.30
貯蔵エリア（B区画）	3.40
貯蔵エリア（D-2区画）	0.92

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/9/13 （稼働後） Cs-134 (Bq/cm^3)	Cs-137 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND	ND
フィルタープレステント	ND	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/9/12,13 （稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	重機	バックホウ	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	バックホウB-①	ND
		バックホウB-②	ND
		ローラーB	ND
		ブルドーザーB-①	ND
		スクレープドーザーB	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	バックホウD2-①	ND
		バックホウD2-②	ND
		バックホウD2-③	ND
		ブルドーザーD2-①	ND
		ブルドーザーD2-②	ND

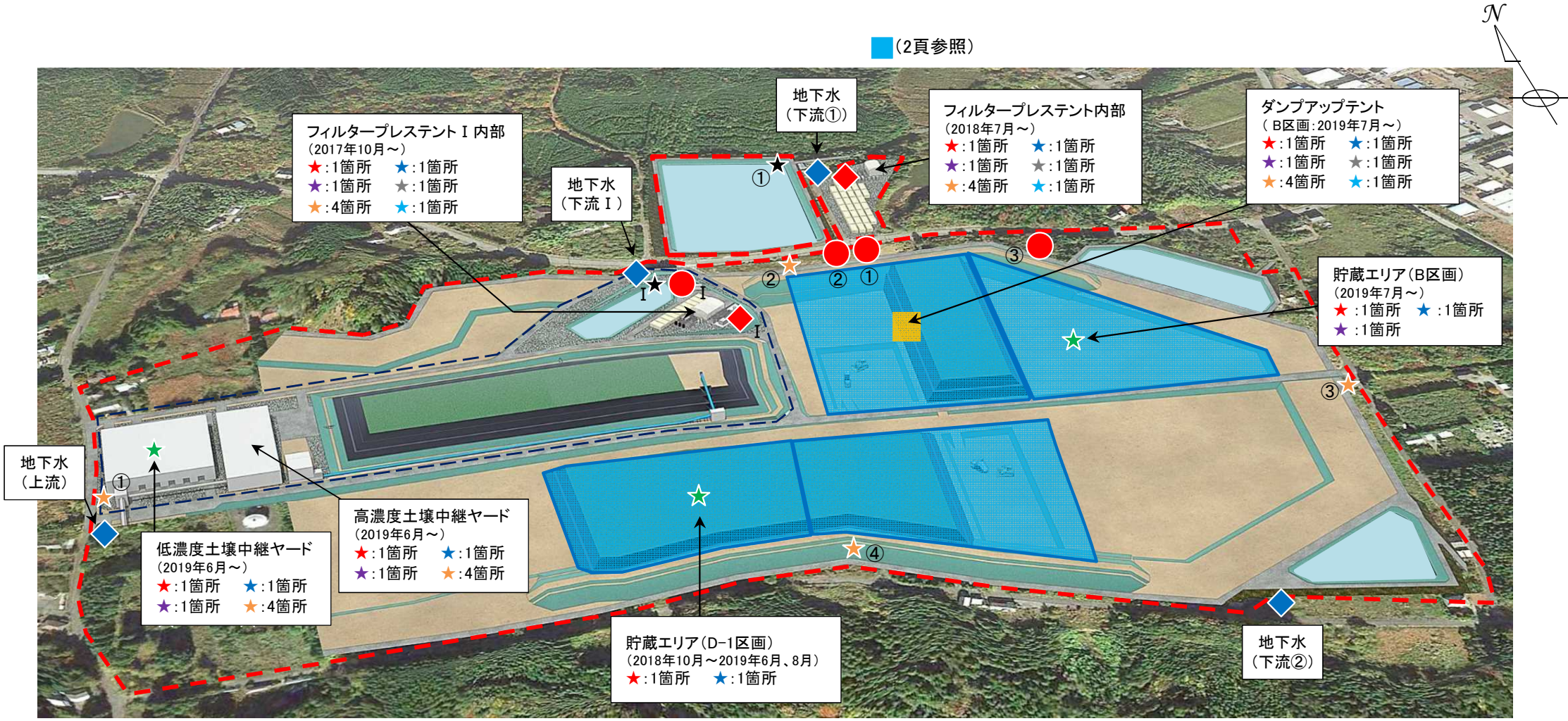
※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定） 2019年8月



☆:施設の位置

【 凡例 】

- ◆ : 地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★ : 沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★ : 空間線量率（作業環境）
- ★ : 表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- --- : 敷地境界線
- ● : 地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■ : 放流先河川の放射能濃度
- ★ : 空気中の放射能濃度
- ★ : 表面汚染密度（設備）
- --- : 旧大熊②工区、第1期　土壌貯蔵施設境界
- ◆ : 浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★ : 粉じん濃度
- ★ : 表面汚染密度（床）
- ★ : 表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年8月

♦地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 (稼働前)	13	13
	2019/8/1 (稼働後)	13	9.9
下流①	2018/7/11 (稼働前)	23	13
	2019/8/1 (稼働後)	23	11
下流②	2018/7/10 (稼働前)	17	5.7
	2019/8/1 (稼働後)	15	5.0
下流Ⅰ※	2017/10/11 (稼働前)	19	6.5
	2019/8/1 (稼働後)	43	18

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 (稼働前)	ND
	2019/8/19 (稼働後)	ND
集排水設備②	2018/10/15 (稼働前)	ND
	2019/8/19 (稼働後)	ND
集排水設備③	2019/6/26 (稼働前)	ND
	2019/8/19 (稼働後)	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 (稼働前)	ND
	2019/8/19 (稼働後)	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

♦浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/8/1	7.9	0.5	12	ND
処理水Ⅰ※	2019/8/1	8.2	0.5	18	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8~8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

♦浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/8/1 ~2019/8/31	102	0.0	3.6	ND	3025.4
処理水Ⅰ※	2019/8/1 ~2019/8/30	20	0.6	3.9	ND	474

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
沈砂池①	2019/8/1	3
沈砂池Ⅰ※	2019/8/1	4

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 (稼働前)	ND	5.0
	2019/8/1 (稼働後)	ND	2.4

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/8/1 (稼働後) 粉じん濃度 (mg/m^3)
ダンプアップテント（B区画）	0.5
フィルタープレステント	0.3
フィルタープレステントⅠ※	0.2
低濃度土壌中継ヤード	0.9
高濃度土壌中継ヤード	0.2
貯蔵エリア（B区画）	0.2
貯蔵エリア（D-1区画）	0.4

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/8/7,8 (稼働後) 空間線量率 (μSv/h)
ダンプアップテント（B区画）	0.41
フィルタープレステント	1.38
フィルタープレステントⅠ※	0.45
低濃度土壌中継ヤード	0.56
高濃度土壌中継ヤード	1.00
貯蔵エリア（B区画）	2.69
貯蔵エリア（D-1区画）	0.76

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/8/7 (稼働後) 放射能濃度 (Bq/cm^3)
ダンプアップテント（B区画）	ND
フィルタープレステント	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137： 1.0 ×10^{-7}Bq/cm^3

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/8/7,8 (稼働後) 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（B区画）	床	B-①	ND
	壁	B-①	ND
		B-②	ND
		B-③	ND
		B-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	重機	バックホウ	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	バックホウB-①	ND
		ローラーB	ND
		ブルドーザーB-①	ND
		スクレープドーザーB	ND
貯蔵エリア（D-1区画）	重機	バックホウD-①	ND
		ブルドーザーD-①	ND

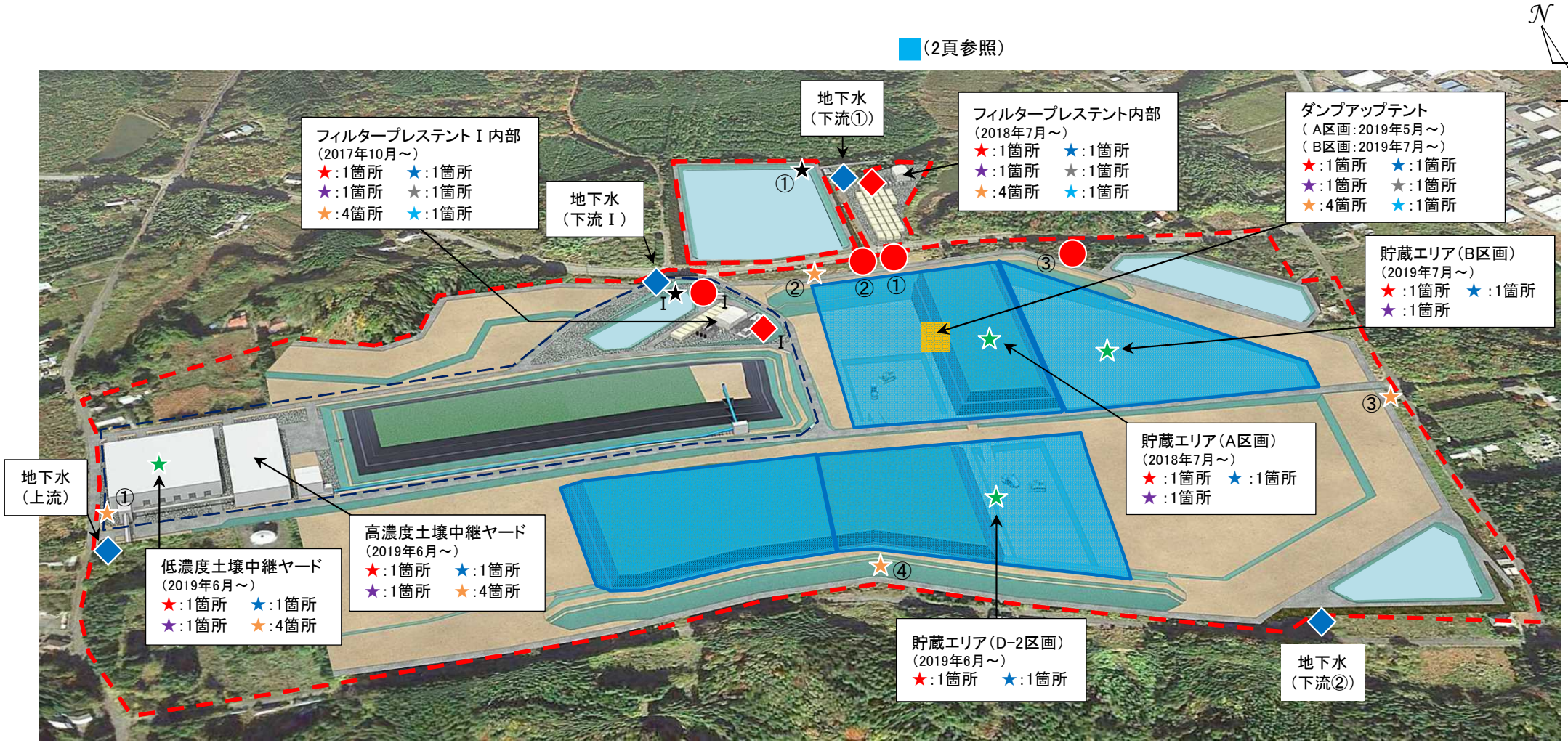
※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定） 2019年7月



凡例

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線
- ---：旧大熊②工区、第1期　土壌貯蔵施設境界

土壌貯蔵施設（大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年7月

♦地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/7/4 （稼働後）	12	11
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/7/4 （稼働後）	22	12
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/7/4 （稼働後）	21	15
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/7/4 （稼働後）	32	15

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/7/4 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/7/4 （稼働後）	ND
集排水設備③	2019/6/26 （稼働前）	ND
	2019/7/18 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/7/4 （稼働後）	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

♦浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/7/4	6.7	1.4	7.2	ND
処理水Ⅰ※	2019/7/4	7.4	1.1	14	2

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8～8.6 , BOD基準：60mg/L , COD基準：90mg/L , SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）のNDとは、報告下限値（1mg/L）未満であることを示す。

♦浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/7/1 ～2019/7/31	394	0.0	4.9	ND	11764.8
処理水Ⅰ※	2019/7/1 ～2019/7/31	26	0.6	3.9	ND	643.9

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量（SS） (mg/L)
沈砂池①	2019/7/4	39
沈砂池Ⅰ※	2019/7/4	14

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/7/10 （稼働後）	ND	3.0

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/7/3,4,25 （稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
貯蔵エリア（A区画）	0.4
貯蔵エリア（B区画）	0.4
貯蔵エリア（D-2区画）	0.3
ダンプアップテント（A,B区画）	3.1
フィルタープレステント	0.2
フィルタープレステントⅠ※	0.2
低濃度土壌中継ヤード	1.1
高濃度土壌中継ヤード	0.1

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/7/3,10 （稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
貯蔵エリア（A区画）	3.15
貯蔵エリア（B区画）	3.26
貯蔵エリア（D-2区画）	1.02
ダンプアップテント（A,B区画）	0.26
フィルタープレステント	1.25
フィルタープレステントⅠ※	0.40
低濃度土壌中継ヤード	0.50
高濃度土壌中継ヤード	1.32

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/7/3,10 （稼働後） 放射能濃度 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（A区画）	ND
貯蔵エリア（B区画）	ND
ダンプアップテント（A,B区画）	ND
フィルタープレステント	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND

※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値： セシウム134： 1.0 ×$10^{-7}$$Bq/cm^3$、セシウム137： 1.0 ×$10^{-7}$$Bq/cm^3$

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/7/3,10 （稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（A,B区画）	床	AB-①	ND
	壁	AB-①	ND
		AB-②	ND
		AB-③	ND
		AB-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
貯蔵エリア（A区画）	重機	バックホウA-①	ND
		ローラーA	ND
		ブルドーザーA-①	ND
貯蔵エリア（B区画）	重機	ローラーB	ND
		ブルドーザーB-①	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	バックホウD2-①	ND
		ローラーD2	ND
		スクレープドーザーD2-①	ND
		ブルドーザーD2-①	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	重機	バックホウ	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND

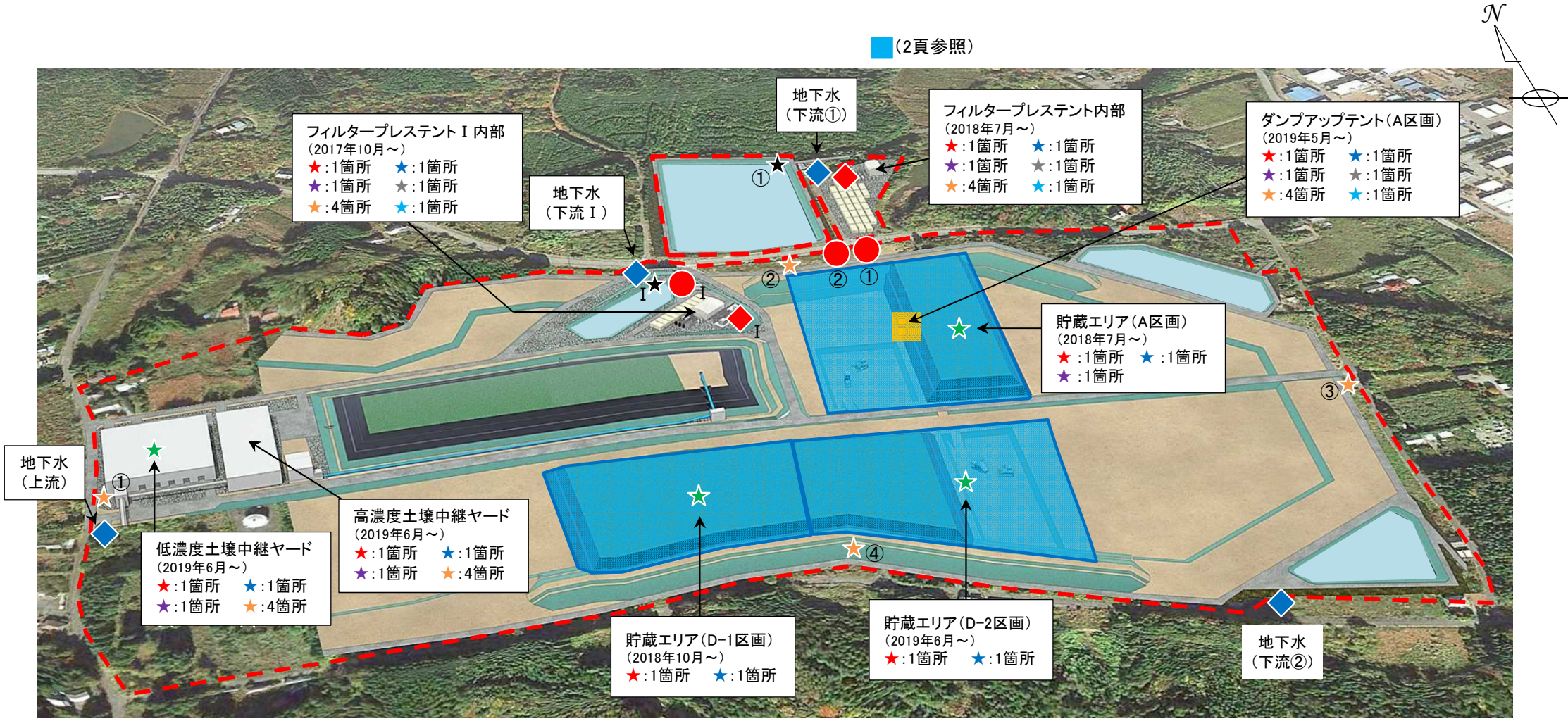
※旧大熊②工区、第1期 土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（第2期大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定） 2019年6月



凡例

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（第2期大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年6月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/6/6 （稼働後）	12	11
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/6/6 （稼働後）	21	12
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/6/6 （稼働後）	16	18
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/6/6 （稼働後）	30	15

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/6/19 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/6/19 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/6/19 （稼働後）	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の集排水設備。

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/6/6	7.1	3.5	6.4	1
処理水Ⅰ※	2019/6/6	7.6	2.9	13	1

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/6/1 ～2019/6/29	226	0.0	4.4	ND	6692.9
処理水Ⅰ※	2019/6/1 ～2019/6/29	22	0.0	2.9	ND	542.7

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。

濁度管理値：5.0以下

放射性セシウム管理値：ND

NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量（SS） (mg/L)
沈砂池①	2019/6/6	3
沈砂池Ⅰ※	2019/6/6	3

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の沈砂池。

SS基準：60mg/L

浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/6/6 （稼働後）	ND	4.7

放射能濃度検出下限値：1Bq/L

NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/6/5,6 （稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
貯蔵エリア（A区画）	0.6
貯蔵エリア（D-1区画）	0.8
貯蔵エリア（D-2区画）	0.1
ダンプアップテント（A区画）	0.6
フィルタープレステント	0.2
フィルタープレステントⅠ※	0.4
低濃度土壌中継ヤード	0.2
高濃度土壌中継ヤード	1.2

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/6/21 （稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
貯蔵エリア（A区画）	2.77
貯蔵エリア（D-1区画）	0.56
貯蔵エリア（D-2区画）	0.53
ダンプアップテント（A区画）	0.27
フィルタープレステント	0.76
フィルタープレステントⅠ※	0.32
低濃度土壌中継ヤード	0.49
高濃度土壌中継ヤード	0.88

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/6/21 （稼働後） 放射能濃度 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（A区画）	ND
ダンプアップテント（A区画）	ND
フィルタープレステント	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND
低濃度土壌中継ヤード	ND
高濃度土壌中継ヤード	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

放射能濃度検出下限値：　セシウム134：　5.0　×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137：　5.0　×10^{-7}Bq/cm^3

NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/6/21 （稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（A区画）	床	A-①	ND
	壁	A-①	ND
		A-②	ND
		A-③	ND
		A-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
貯蔵エリア（A区画）	重機	バックホウA-①	ND
		ローラーA	ND
		ブルドーザーA-①	ND
貯蔵エリア（D-1区画）	重機	バックホウD-①	ND
		ローラーD	ND
		ブルドーザーD-①	ND
貯蔵エリア（D-2区画）	重機	バックホウD2-①	ND
		バックホウD2-②	ND
		ローラーD2	ND
		スクレープドーザーD2-①	ND
		ブルドーザーD2-①	ND
低濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	重機	バックホウ	ND
		ホイールローダー	ND
高濃度土壌中継ヤード	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND

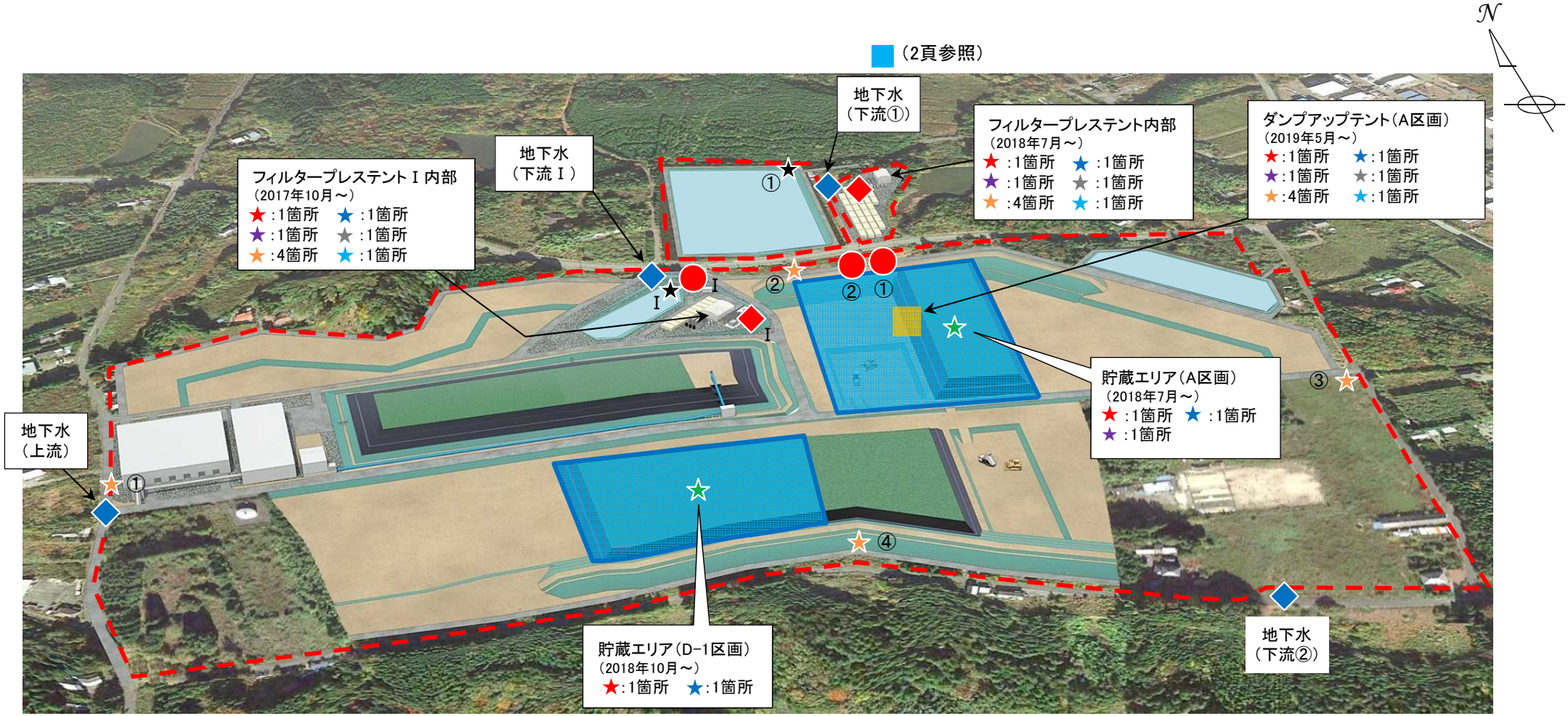
※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

表面汚染密度検出下限値：　0.14　Bq/cm^2

NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。

限度：40Bq/cm^2

土壌貯蔵施設（第2期大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定）2019年5月



凡例

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ---：敷地境界線
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（設備）
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：粉じん濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（重機）

土壌貯蔵施設（第2期大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年5月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定日＼測定項目	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/5/9 （稼働後）	12	10
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/5/9 （稼働後）	21	11
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/5/9 （稼働後）	17	15
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/5/9 （稼働後）	29	14

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/5/17 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/5/17 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/5/17 （稼働後）	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の集排水設備。
放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定日＼測定項目	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/5/9	7.8	1.3	9.2	1
処理水Ⅰ※	2019/5/9	7.8	1.2	15	1

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。
pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m³)
処理水	2019/5/8 ～2019/5/31	133	0.0	4.7	ND	3703.5
処理水Ⅰ※	2019/5/7 ～2019/5/31	25	0.0	4.0	ND	621.3

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。
濁度管理値：5.0以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定日＼測定項目	浮遊物質量（SS） (mg/L)
沈砂池①	2019/5/9	5
沈砂池Ⅰ※	2019/5/9	3

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の沈砂池。
SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定日＼測定項目	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/5/9 （稼働後）	ND	3.7

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/5/9,10 （稼働後） 粉じん濃度 (mg/m³)
貯蔵エリア（A区画）	0.5
貯蔵エリア（D-1区画）	0.7
ダンプアップテント（A区画）	1.3
フィルタープレステント	0.2
フィルタープレステントⅠ※	0.2

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。
定量下限値：0.1mg/m³、高濃度粉じんの下限値：10mg/m³

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/5/24 （稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
貯蔵エリア（A区画）	3.73
貯蔵エリア（D-1区画）	0.79
ダンプアップテント（A区画）	0.34
フィルタープレステント	0.27
フィルタープレステントⅠ※	0.80

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/5/24 （稼働後） 放射能濃度 (Bq/cm³)
貯蔵エリア（A区画）	ND
ダンプアップテント（A区画）	ND
フィルタープレステント	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND

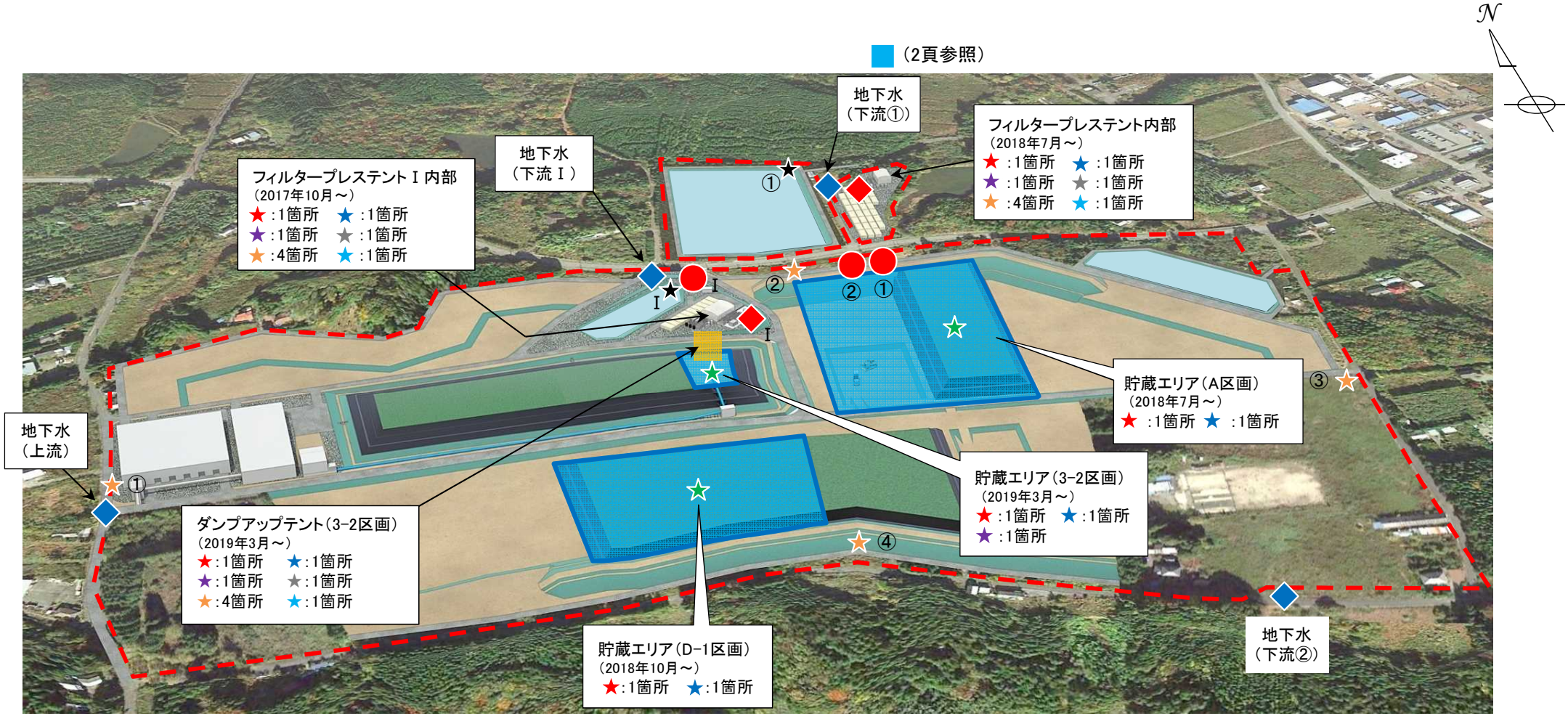
※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。
放射能濃度検出下限値： セシウム134： 5.0 ×10⁻⁷Bq/cm³、セシウム137： 5.0 ×10⁻⁷Bq/cm³
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm³]の限度：セシウム134の濃度／2×10⁻³+セシウム137の濃度／3×10⁻³≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点			2019/5/24 （稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm²)
貯蔵施設境界		境界①	ND
		境界②	ND
		境界③	ND
		境界④	ND
ダンプアップテント（A区画）	床	A-①	ND
	壁	A-①	ND
		A-②	ND
		A-③	ND
		A-④	ND
	設備	ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床	①	ND
	壁	①	ND
		②	ND
		③	ND
		④	ND
	設備	フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床	Ⅰ-①	ND
	壁	Ⅰ-①	ND
		Ⅰ-②	ND
		Ⅰ-③	ND
		Ⅰ-④	ND
	設備	フィルタープレスⅠ	ND
貯蔵エリア（A区画）	重機	バックホウA-①	ND
		ブルドーザーA-①	ND
貯蔵エリア（D-1区画）	重機	バックホウD-①	ND
		ブルドーザーD-①	ND
		ブルドーザーD-②	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。
表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm²
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm²

土壌貯蔵施設（第2期大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定地点（月次測定）2019年4月



凡例

- ◆：地下水（井戸）中の電気伝導率等
- ●：地下水（集排水設備）中の放射能濃度
- ◆：浸出水処理施設放流水の放射能濃度等
- ★：沈砂池からの放流水の浮遊物質量
- ■：放流先河川の放射能濃度
- ★：粉じん濃度
- ★：空間線量率（作業環境）
- ★：空気中の放射能濃度
- ★：表面汚染密度（床）
- ★：表面汚染密度（貯蔵施設境界・壁）
- ★：表面汚染密度（設備）
- ★：表面汚染密度（重機）
- ---：敷地境界線

土壌貯蔵施設（第2期大熊②工区）における
周辺環境及び作業環境測定結果（月次測定） 2019年4月

◆地下水（井戸）中の電気伝導率等

測定地点	測定項目 / 測定日	電気伝導率 (mS/m)	塩化物イオン濃度 (mg/L)
上流	2018/7/10 （稼働前）	13	13
	2019/4/4 （稼働後）	12	11
下流①	2018/7/11 （稼働前）	23	13
	2019/4/4 （稼働後）	23	13
下流②	2018/7/10 （稼働前）	17	5.7
	2019/4/4 （稼働後）	18	16
下流Ⅰ※	2017/10/11 （稼働前）	19	6.5
	2019/4/4 （稼働後）	30	15

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の下流井戸。

●地下水（集排水設備）中の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	放射能濃度 (Bq/L)
集排水設備①	2018/7/5 （稼働前）	ND
	2019/4/15 （稼働後）	ND
集排水設備②	2018/10/15 （稼働前）	ND
	2019/4/15 （稼働後）	ND
集排水設備Ⅰ※	2017/10/5 （稼働前）	ND
	2019/4/4 （稼働後）	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の集排水設備。
放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。

◆浸出水処理施設放流水の環境項目

測定地点	測定項目 / 測定日	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	化学的酸素要求量 (COD) (mg/L)	浮遊物質量 (SS) (mg/L)
処理水	2019/4/4	7.1	1.9	17	1
処理水Ⅰ※	2019/4/4	7.8	0.6	12	<1

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。
pH基準：5.8～8.6，BOD基準：60mg/L，COD基準：90mg/L，SS基準：60mg/L

◆浸出水処理施設放流水の自動測定結果

測定地点	放流日	放流回数	濁度 最小値	濁度 最大値	放射性セシウム (Bq/L)	放流量 (m^3)
処理水	2019/4/1 ～2019/4/26	48	0.0	2.4	ND	1300.7
処理水Ⅰ※	2019/4/1 ～2019/4/26	23	0.0	3.2	ND	575

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の浸出水処理施設放流水。
濁度管理値：5.0以下
放射性セシウム管理値：ND
NDとは、検出下限値（5.85Bq/L）未満であることを示す。

★沈砂池からの放流水の浮遊物質量

測定地点	測定項目 / 測定日	浮遊物質量（SS） (mg/L)
沈砂池①	2019/4/4	2
沈砂池Ⅰ※	2019/4/4	6

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設の沈砂池。
SS基準：60mg/L
浮遊物質量（SS）の報告下限値：1mg/L

■放流先河川の放射能濃度

測定地点	測定項目 / 測定日	Cs-134 (Bq/L)	Cs-137 (Bq/L)
夫沢川支流	2018/7/10 （稼働前）	ND	5.0
	2019/4/4 （稼働後）	ND	3.4

放射能濃度検出下限値：1Bq/L
NDとは、放射能濃度が検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/L]の基準：セシウム134の濃度／60＋セシウム137の濃度／90≦1

★粉じん濃度

測定地点	2019/4/4 （稼働後） 粉じん濃度 (mg/m^3)
貯蔵エリア（A区画）	0.8
貯蔵エリア（D-1区画）	1.0
貯蔵エリア（3-2区画）	0.2
ダンプアップテント（3-2区画）	1.4
フィルタープレステント	0.2
フィルタープレステントⅠ※	0.4

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。
定量下限値：0.1mg/m^3、高濃度粉じんの下限値：10mg/m^3

★空間線量率（作業環境）

測定地点	2019/4/24 （稼働後） 空間線量率 (μSv/h)
貯蔵エリア（A区画）	0.57
貯蔵エリア（D-1区画）	0.63
貯蔵エリア（3-2区画）	3.33
ダンプアップテント（3-2区画）	0.35
フィルタープレステント	0.32
フィルタープレステントⅠ※	0.76

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。

★空気中の放射能濃度

測定地点	2019/4/24 （稼働後） 放射能濃度 (Bq/cm^3)
貯蔵エリア（3-2区画）	ND
ダンプアップテント（3-2区画）	ND
フィルタープレステント	ND
フィルタープレステントⅠ※	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。
放射能濃度検出下限値： セシウム134： 5.0 ×10^{-7}Bq/cm^3、セシウム137： 5.0 ×10^{-7}Bq/cm^3
NDとは、セシウム134とセシウム137のいずれもが検出下限値未満であることを示す。
放射能濃度[Bq/cm^3]の限度：セシウム134の濃度／2×10^{-3}+セシウム137の濃度／3×10^{-3}≦1

表面汚染密度（★床、★貯蔵施設境界・壁、★設備、★重機）

測定地点		2019/4/24 （稼働後） 表面汚染密度 (Bq/cm^2)
貯蔵施設境界	境界①	ND
	境界②	ND
	境界③	ND
	境界④	ND
ダンプアップテント（3-2区画）	床 （3-2）-①	ND
	壁 （3-2）-①	ND
	（3-2）-②	ND
	（3-2）-③	ND
	（3-2）-④	ND
	設備 ベルトコンベア	ND
フィルタープレステント	床 ①	ND
	壁 ①	ND
	②	ND
	③	ND
	④	ND
	設備 フィルタープレス	ND
フィルタープレステントⅠ※	床 Ⅰ-①	ND
	壁 Ⅰ-①	ND
	Ⅰ-②	ND
	Ⅰ-③	ND
	Ⅰ-④	ND
	設備 フィルタープレスⅠ	ND
貯蔵エリア（A区画）	重機 バックホウA-①	ND
	ローラーA	ND
	ブルドーザーA-①	ND
貯蔵エリア（D-1区画）	重機 バックホウD-①	ND
	ローラーD	ND
	ブルドーザーD	ND
貯蔵エリア（3-2区画）	重機 バックホウ（3-2）-①	ND
	ローラー（3-2）	ND
	ブルドーザー（3-2）	ND

※旧第1期大熊②工区土壌貯蔵施設のフィルタープレステント。
表面汚染密度検出下限値： 0.14 Bq/cm^2
NDとは、表面汚染密度が検出下限値未満であることを示す。
限度：40Bq/cm^2